

10月27日（木）の会礼ー「生徒指導主任の話」ーより

この中に、友達から「うざい」「きもい」「むかつく」なんていう、きたない言葉を言われてうれしい人はいますか。

この中に、友達から「バカじゃないの」なんてひどい言葉を言われてうれしい人はいますか。

この中に、友達から「死ね」なんて、本当に本当に悲しい言葉を言われてうれしい人はいますか。

絶対にいません。うれしいはずがありません。

でも、友達にそういう思いをさせている人が、この中にいます。それも一人や二人ではなく、何人もいます。

自分が言われたら嫌なのに、友達に言うのは平気。

そんなのは、おかしい。ずるい。まちがっている。

「そんなつもりはなかった」「ただふざけてただけ」

言った人はそう思っている、言われた人はとても傷ついている。

言葉がグサリと心に突き刺さり、とても苦しんでいるのです。

相手を傷つけたり、苦しめたりするのは、いじめです。

そんないじめのある学校がいいですか。

いいわけない。いじめのない、みんなが安心できる学校の方がいいに決まっている。

今日から、長野小学校をいじめのない学校にします。

みなさんの力で、いじめのない学校にするのです。

そのために、どうしたらよいか、一人一人がよく考えて行動してください。

私から、一つだけここで言っておきます。

やさしい言葉をつかうこと。

相手を思いやる、やさしい言葉づかいをすることです。

やさしく声を掛けると、やさしい言葉が返ってきます。

やさしくしてくれる相手には、やさしくしたくなるのです。

やさしさは、自分に返ってくるのです。

同じように、嫌な言葉もいつか自分に返ってきます。

やさしい言葉をつかいなさい。

相手の気持ちをよーく考えて、やさしい言葉をつかいなさい。

長野小の、今日からの約束です。